

小泉内閣が **イラク派兵を延長**

侵略戦争と戦争犯罪の 共犯者になってはなりません

日本共産党

小泉内閣は9日、イラク自衛隊派兵延長を閣議決定しました。
国会で議論せず、政府だけで勝手に決めるやり方は許せません。

ファルージャ

「6千人以上が死亡」 人道と国際法に反する 無差別殺りく

「この攻撃のなかで6千人以上が死んだ可能性がある」「死体がいたるところにあり、通行が困難」――イラクの赤十字「赤新月社」が現地の惨状を伝えました。

アメリカ軍は、総合病院を占拠し、

医師や看護婦がいなくなるまで破壊し、そのうえ、モスクに逃げ込んだ無抵抗の老人や女性や子どもまで、動くものすべてをみな殺しにする――このような、人道と国際法に反する残虐行為が許されていいのでしょうか。

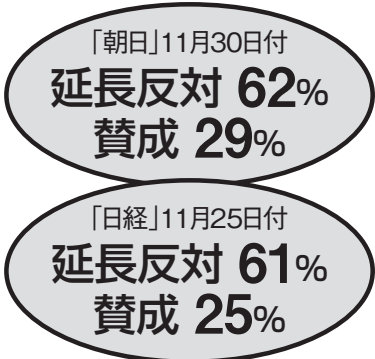
殺りく作戦は「成果をあげた」と語る小泉首相 派兵続ければ、イラク人全体の敵に

イラク戦争の「大義」が崩れ、イラク全土が戦場となるなか、撤退する国があいついでいます。しかし、小泉首相は、殺りく作戦が「一定の成果をあげた」といつて派兵を延長。このままでは、日本も自衛隊も、アメリカ軍のひきおこした侵略戦争と戦争犯罪の共犯者として、世界から孤立し、イラク人全体の敵となります。「殺し、殺される」――とり返しつけない泥沼にはま

りこむことになりかねません。

<p><イラクから撤退した国> シンガポール、スペイン、タイ、ドミニカ共和国、ニカラグア、ニュージーランド、ノルウェー、フィリピン、ホンジュラス ※ノルウェーとシンガポールは本体撤退、一部残留・再派遣</p> <p><撤退が報じられた国> ウクライナ、オランダ、チェコ、ハンガリー、ブルガリア(削減)、ポーランド、ポルトガル</p>
--

自衛隊はただちに撤退を



日本共産党は、イラク戦争の「大義」をごまかし、ファルージャの大虐殺を支持する小泉首相を厳しく追及してきました。いま、イラクから自衛隊の撤退を求める声があがっています。日本共産党は、平和を求めるみなさんと力をあわせてがんばります。



2004年12月号外
(1952年5月30日 第三種郵便物認可)

発行●日本共産党中央委員会 〒151-8586 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-26-7
TEL03-3403-6111(代表) FAX03-5474-8358 ホームページアドレス <http://www.jcp.or.jp>
日本共産党の見解を紹介します。あなたのご意見、ご感想をお寄せください。